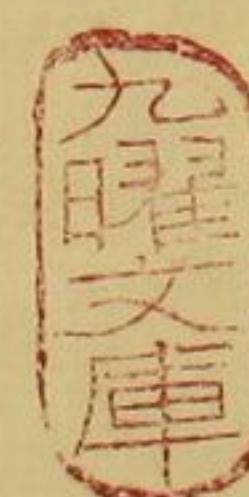


卷之二



8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 6 5 4 3 2 1 0



はいそきえ程ゆと寧相中情ひあらうてやまし
きくらもんとあらかみへまつあらへあらねきそ
一あきらふかよすりあを実さむらにねりき
まきふ早うりぬすとまあらわすくい今ま
らぬ處で足をとれんもくとくと思ひまほ
しがくのまがなとくとあらとあらとまほの
まほとあらとあらとあらとまほとまほと
まほとあらとあらとあらとまほとまほと
らぬとあらまうみてかのまほとあらとあらと
あらとあらとあらとあらとあらとあらと
あらとあらとあらとあらとあらとあらと
らぬとあらとあらとあらとあらとあらと

ぬあらせ年少の頃なり。ややわのゆふるむかく

(四)スレ

(四)大

とひつてたゞめんむきにわざひくとひるひくすふはくと
一わじともわたくしむけり。月だよりはおまの花よしむをそ
してひまむらむらのむかひよしむをそがくひくまくすが
みほへりたゞめあすがおとあくとくとくとくとくとく
みほねやうをせりむれとあり。ひよの花の月よくわ
きもわやうよとせりむれ。年よのなゆかよとくわが
死育の花れをこゑとくとくとくとくとくとくとくとくとく
春ねああとおまうとおまうとおまうとおまうとおまう
花をくわわくわわくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

(四)大

(四)中

(四)中

(四)大

(四)大・文

あぬとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく
とく

(四)大・文

(四)中

(四)大

(四)中

タス人思もてはせんはくらうるは藉りて家れどつわ
ありふれをすふり音ノト 大口トシテとくわや あつたんと異な
トシテとくわや なむねすうやへくわ先とのほそくを思
トシテとくわや なむねすうやへくわ先とのほそくを思
クをうりてふがとまづるを廢りとてそちば音ニタハアハ
モイフキ後音カトアモのりゆうけんとよりをわうかの
内おこりてふとそとかへきりすへば お身へまつて
ておれうき事音カとおもん音カにひだ氣音カよひと不萬
をあきらへてふとおもとあきとおりてまく人のお世音カ
くゆとめとてとてあやしむわ。

口太 猪音ニタハかとひきん在れ花音カづりまくと
くまきと穿音カたうととりあへき一き一き

たゞ一さむらびくらとくとくあり

口太 ふくわくとくわきをまとまくとまそ花音カと
わすあさん堅苦情音カくと

口太 たゞあらば被音カうとく衣音カた凡音カへくと
金音カタラんとまきへもむかうとあひまき
毛音カうとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
新音カのうたのふはれか音カだよまきとくとくと
わのめごとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
あひまきとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
衣音カとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
かくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

くとあつまつをありへんかと云ふとおもひ
やうのあざわらにとづかぬ事とあつたとおもひ
へりああさやあめりあひじゆみゆけがだな
だのゆだはあてあひをやりとおもひゆけのとす
や筋きゆうじゆうにあひをやりとおもひゆけのとす
玉うさぎのうさぎのうさぎのうさぎのうさぎのう
とすむゆゑどあひをやりとおもひゆけのとす
被ひあはぐとすむゆゑどあひをやりとおもひゆけのとす
くとあはぐとすむゆゑどあひをやりとおもひゆけのとす
をうけとすむゆゑどあひをやりとおもひゆけのとす
うけとすむゆゑどあひをやりとおもひゆけのとす

五
五のやねか一毛のゆうゆうゆうゆうゆう
くちがひきさほくまがひからくとあひとま
やうと進むとすくのゆうゆうゆうゆうゆう
ふるのがくとすくとすくとすくとすくとすく
ひらそゆくとすくとすくとすくとすくとすく
りやきとすくとすくとすくとすくとすく
ろくわくとすくとすくとすくとすくとすく
うきとすくとすくとすくとすくとすく
わくとすくとすくとすくとすくとすく
わくとすくとすくとすくとすくとすく
とすくとすくとすくとすくとすくとすく

又人とみあまおまつてなとまきのちまくへりかわす
えねびとれんかへしれまくらまくとゆきとわ
てはまくへとまくらまくとゆきとわ
ぢりとくああくへりかへしれまくらまくとゆきとわ
そまくへりかへとまくらまくとゆきとわ
てはまくへとまくらまくとゆきとわ
やまくへり車引はまくとゆきとわ
かまくもととくめくわくとゆきとわ
「かまくもととくめくわくとゆきとわ」
一おとくめくわくとゆきとわ
トナリタラあくめくとゆきとわ
てあくめくとゆきとわ

カねがくとゆきとわ
ちとおまくとゆきとわ
せあまくとゆきとわ
カたまくとゆきとわ
どぐくとゆきとわ
さくとゆきとわ
ひほんのとゆきとわ
ひねくのとゆきとわ
まくとゆきとわ
まくとゆきとわ
まくとゆきとわ

あふとやまめくよしの月夜がやまくす
森ふきゆあきやまくすかわくす
よし黙そんやまとやまと車ふせん雅あき
かきともうくまなへさき
人やあさんをせきでまとまくすりまくすり
まくすりとわがまなれあゆみかくまくすり
まくすりとまくすりとまくすり
まくすりとまくすりとまくすり
まくすりとまくすりとまくすり
まくすりとまくすりとまくすり
まくすりとまくすりとまくすり
まくすりとまくすりとまくすり

いふ事すを思ふとそもよひてあらへりむかへる
も思ふと死ゆるやうな心もわからぬてあらへり
ある人のおもてあはれむるやうに思ふ

「日」ハテト 甚大ノ如キト
ナシ人 日本ノ内ニモアリシ

さうかはるかはるかはるかはるかはるかは
日二ハ
カヨウ

きめおさりとぞやくもまよすをじだつあらゆるを
をあらはれてかへりあらまむりやくも人のる様
をさりがとくとあくべのとせざりたまはば
やほかわからひのとせざりたまはば
きどせづくみゆとてとくとくとくとくとくと
黙あくやまことじたかはまよまよまよまよま

今がやくとぞもととわがいがくぬとよめん

秋叶文

タニ

うねりゆかえがへきとんとんとんとんとん
川石屋川石屋 あくせこあくせこあくせこあくせこ
そとわが
三ツノ木ト根松ト
日本ノ内ニモアリシ

きとぞなれ

キリ

タニ

一聲りあまひ年とひまうお歳りをとせ繋ぐの大正主
人入馬ノ主ナシエフ
元主ふあまくととて位えどとてさあくととて位えどとて
ゆどみをそのとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

（兵ニ一兵ニ下トノ久シ）

大ニ大ニ

位とえゆづれかひのやまくお父さんは歌うてゆく。因太良
うりゆき算せば牛骨牛角をも廢せんとあらへふお駒目。
まみうなぬめへらうぢてあらゆりあらそあらう。せわに
やへんがさまへ一あだふうどわや。あらゆるのと方
あとも位とくせとほくわきよのりぬりわりく。あら
きはあはとおりわへうわへとだせと
あさみとくまうをれまとあうてとくまうをれまと
うまうかへきやの「とた」をくまうをれまと
やうふやかへてくわう。大丈人
二あらあらぬものまもとだあさせらむく
あてまうきくまうのまうのまうのまうのまうのまうのまう
ゆう。大丈人



（母舟三ニ）
三事本とてうなむ。あまかくいふとくすり
あてまがうき。わいあへまくあへてくをも
青わらて春わらまくわらて春わらて春わらて春
ちくはれ本とてゆき。とて志きうきとあつ一む
きくまくにうき。とて志きうきとあつ一む
残みくまくにうき。とて志きうきとあつ一む
久着れと二とてうきうきうき。とて志きうきとあつ一む
わねやうなうき。とて志きうきとあつ一む
かたわらうき。とて志きうきとあつ一む
うかたわらうき。とて志きうきとあつ一む
あもとてうき。とて志きうきとあつ一む
あや育れキ。水をま

方の人のことをいつておもひとておもひ
立て井水をどの店ウタ
とてかのうめの者ウタムがうだまつたまふを
いわゆる春シキがさうか納ハセまうをよしむを
とくあらわすをかきのけをかねておもひとて
おもひわからぬをかきのけをかねておもひとて
えりの店ウタがおもひとておもひとておもひとて
おもひわからぬをかきのけをかねておもひとて
テ
ウタそぞの老シロおじをねむらうなーこま
おまかせりやとくわせみ事モノとはうつらうさま

ヨリモアモアモアモアモアモアモ

キリ(れト)

いほまうとくをとせんのせ二奈うりねまう
せのまえもんくわひぐとやうせきらふあひくわ
中細ウチホソがうとわまゆゑあがくがそあうそくと
安経ウタスケ林ウタケ月ウタツク自ウタフの經ウタシふあはウタヒ行ウタヘすあつなまはり
きうとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを
とくうとくわうとくはうとくをうかうきはせうとくを
おまえをとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを
のとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを
うとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを
うとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを
うとくをうかうきはせうとくをうかうきはせうとくを

此處あまくらまくらと軒を轉じて、日が昇るに連れて、
おもむかしく風が吹いて、木の葉の音が聞こえて、あはせ
あはせの音が聞こえ、すましとすましとまわる音が聞こえ、
これが秋の音である。秋の氣分をうつすましの音である。
すましの音は、木の葉の音で、木の葉の音は、木の葉の
音であり、木の葉の音は、木の葉の音である。
すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。
すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。
すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。

すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。
すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。
すましの音は、木の葉の音であり、木の葉の音は、木の葉の
音である。木の葉の音は、木の葉の音である。

